

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Unit 1.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for the evaluation agency.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社健康会として教育・安全・感染・接遇委員会があり、職員の能力に合わせて各委員会に参加し、委員が事業所で研修講師等として他職員の教育に周知し共有している。理念に基づき、職員一人ひとりがきめ細やかな対応を常に心がけ、町内会や隣の保育園との交流、毎月行われる行事にも積極的に取り組んでいる。法人内の訪問看護・メディケアホーム・クリニックとの連携により、医療面での迅速な対応が可能。忠和クリニックとの連携により、住み慣れたホーム内での看取りを行っている。ご家族様の思いに出来る限り沿ったサービスを最後まで提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の西方向にある閑静な住宅地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。隣接して幼稚園や近隣に商店などがあり、利用者の散歩等に適した立地である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め訪問介護、通所介護、訪問看護、医療系有料老人ホーム等を旭川市を中心に道内及び首都圏にも展開するなど積極的な高齢者介護の支援を行っている。特長は、母体が医療法人である為、医師・看護師を中心とした24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで対応している。当事業所は、隣接した保育園園児や地域の方との日常的な交流で利用者も楽しく過ごしている。また、今年から毎月の研修会で、職員が講師となって、研修を行うなど皆で一緒に考え学ぶ手法で、人を育てる事業所を目指しており、職員間のコミュニケーションもよく、理念を共有し実践につなげているグループホームであり、今後も期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (with sub-points 1-4), 項目, 取組の成果 (with sub-points 1-4). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や来訪者の目に留まりやすい場所に掲げ、職員へポケットサイズの理念を配布し携帯しやすいよう配慮している。また、職員が業務中に迷った場合の判断の指針として定着している。	法人の理念と七つのケア理念を基に、事業所独自の理念を作成し、事業所内に掲示している。事業所理念は、ポケットサイズにして職員がいつも携帯し、研修などを通じて確認しながら、共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様と一緒に近所の商店に買い物に行ったり、町内会の「運動会」「盆踊り」「新年会」等の行事にも事業所として積極的に参加している。	町内の運動会や夏祭りなどの行事に利用者と共に参加しており、法人内忠和地区5事業所合同開催のバーベキュー大会や事業所主催の焼肉会などには地域の方や家族が参加している。また、地域での認知症カフェの運営などにも関わり地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の忠和地区懇話会や、研修会などでの講話を行っている。また、地域での認知症カフェを主催し、実行委員としても参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域の皆様やご家族様、市職員様、他事業所の方々に参加頂き、当事業所の取組等を説明し、毎回貴重なご意見、ご感想を活動にフィードバックするよう努めている。	運営推進会議は、市担当者や地域の方、家族、他の事業所職員などが参加し、定期的開催され意見や要望を聞く機会となっている。また、薬剤師など専門家を招いて、勉強会も行うなど積極的な運営を行っており、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課・介護高齢課の担当者とは、利用者の情報を随時電話で情報交換をし、運営推進会議に参加頂くと共に、制度等で不明な点があった場合は都度ご相談させていただいている。	運営推進会議に市担当者が参加しており、生活保護課とも定期的に報告や情報交換しており、また、忠和地区のSOSネットワーク会にも関わるなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っている入居者様はなし。必要に迫られた場合は「やむを得ず身体拘束を行う場合の対応」に基づき対応をする。帰宅願望等ある利用者様に対しても、その訴えを受容し、本人の行きたいところまで付き添うなどの対応をしている。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、職員を外部研修に参加させるなどしている。また、毎月の事業所内研修会では、今年から職員が講師となり一緒に学びながらの人材育成手法で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で安全対策委員会が開催する虐待の研修会に参加したり、職員が外部の研修会にも参加し、参加者はユニット会議等で全スタッフに周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を申請されている方がおり、居宅介護支援事業所や生活保護課にも都度相談しながら、制度の理解に努めるとともに、現場職員には会議等を通じて学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様とご家族様各々の状況を踏まえ、ニーズに合った対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の苦情、要望等の相談窓口の記載を説明すると共に、アンケート箱の設置や年4回の機関紙にも意見を募っている。また、運営推進会議で頂いたご意見、苦情についてはその都度対応をしている。	事業所の運営状況は年4回のホーム便り、利用者の生活状況は写真付き手紙で毎月家族へ報告している。利用者や家族からの意見は玄関に意見箱を設置し、法人内で毎年アンケート調査を実施しており、敬老会など行事の際には直接聞き取るなどして運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう努め、職員が運営に関する意見などを発言しやすい環境づくりを行っている。また、意見があった場合は、法人本部に都度報告し対応している。	全体会議やユニット会議を毎月開催し、個人面談も定期的実施するなどコミュニケーションを図るよう配慮している。法人内4つの委員会活動や職員へのアンケート調査などして意見や提案を聞く機会を設け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員毎の就労状況の把握に努め、ラダー評価を毎年行い、各個人毎の目標設定をすとともに、給与水準ややりがい、向上心などについても面談にて確認し、必要に応じて本部対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標を各自に設定させ、それを指標に評価している。また、法人内で実施している基礎研修を受講して、外部の研修にも参加できるように研修の情報を随時知らせ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同一法人15事業所での委員会活動、法人行事等で交流を図っている。札幌等の遠方の研修にも各事業所から選抜された職員が一緒に参加している。同圏域内の他グループホームとの研修企画を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安なく安心して生活することができるように、心情・要望などを傾聴し、担当職員を決め信頼関係が築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と連絡・面談を行い、困っていることや今後の支援についての要望などを傾聴し、本人や家族のニーズに応えられるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を活用しアセスメントを行い、身体状況やニーズを把握しインフォーマルサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの身体機能を見極め、食材の買い物や調理の下準備などを共にを行い、利用者様各々に合った関わりを心がけ、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて都度電話連絡し、ご家族様の面会時には、ご本人の様子を報告すると共に、意見やアドバイスを頂いている。また、毎月お手紙を送付し、近況を報告するなど、信頼関係を築いていける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の生活歴などを把握し、これまで大切にしてきた人達や家族との関係が途切れないよう、面会や外出を実施している。	家族や友人、知人の面会や一緒に外出したり、利用者の誕生日に希望を聞き、行きたい所や食べたい物を個別に支援するなどしている。また、家族が法人内別の施設に入居しており、定期的に訪問するなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが過ごしやすい生活環境になるよう職員が必要に応じて紹介し、調理や洗濯物たたみ・外出行事などを通じて利用者様同士の交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人施設間での移動の際、情報提供とともに、ご本人様との面会やご家族様への相談支援の継続に努めている。11/11には旭川から札幌の同法人内施設への引っ越しをされた方がいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、利用者様とご家族様の思いや生活に対する要望を把握し、ケアプラン作成に努めている。	センター方式を活用して、使いこなすよう取り組んでいるが、見直しも同時に進めながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やそのご家族様だけでなく、以前利用していたサービス事業所や地域包括支援センター・医療機関等からも情報収集を行い、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートを利用し、ご本人様の日々の体調や過ごし方、様子を記載することで状態変化を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式や生活シートを利用し、担当職員とアセスメントを行い、ご本人・ご家族様の要望や課題を把握し、かかりつけ医療機関より意見を頂き、管理者・担当職員・計画作成担当者と協議の上、ケアプランを作成している。また、毎月ユニット会議を行い、個別ケアについてチームで検討している。	利用者や家族の意見や要望は、センター方式や生活シートを活用し、アセスメントを行い課題を把握して、主治医や看護師などの意見も含めて、担当者・管理者・計画作成担当者と検討して、介護計画を作成しており、個別ケアはユニット会議で話し合いチームで対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートとケアプランを連動させ、日々の様子やケアの実践結果を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況に応じ、ショートステイの受け入れが可能な体制を整え、必要に応じて法人内他施設への異動も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や近隣の商店、保育園などに協力を依頼し、ご本人が自ら買い物や散歩などを安全に行えるよう理解を求めて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を尊重し、かかりつけの医療機関と連携をとり、適切な医療を受けられるよう指示を仰いでいる。	従来の専門医等のかかりつけ医は、職員が同行して受診している。内科等は殆どの利用者が協力医療機関の主治医で月2回の訪問診療と訪問看護の24時間体制の医療支援をしている。また、薬の小袋に利用者の写真付きで誤薬防止に配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の忠和クリニック・訪問看護と24時間体制で連携をとり、利用者様が適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員やご家族様を介して、利用者様の状態等の情報を頂き、入院中や退院前には再アセスメントを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する指針に基づき説明と同意を頂き、リビングウィルを定期的に確認し、状態が著しく変化した場合は、主治医からのムンテラに出席し、ご家族様、医療機関と連携をとり対応している。	重度化や終末期については、契約時に説明し、同意を得ている。また、重度化した場合は、家族と再度打ち合わせを行い同意書を交わし、看護師を中心に主治医・職員と連携してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修に参加し、参加した職員はユニット会議等で全職員にフィードバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定での避難訓練を行っており、運営推進会議等で近隣住民の方に災害時の避難支援の協力の呼びかけをしている。毎月チェック表を基にコンセンの埃等を点検している。	火災の避難訓練は、夜間想定で消防署の指導の下、家族や地域の方の協力で、年2回定期的に行っている。備蓄や災害時の備品も整備して災害対策を行っている。	定期的に消防署の指導の下、家族や地域の方の協力で避難訓練を行っているが、運営推進会議を活用して、地域の方の理解と参加協力を促すよう工夫を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設け、職員間で勉強会を開催したり接遇マニュアルに準じて利用者様一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	人格の尊重とプライバシー確保は、グループ内の接遇委員会が中心となり、マニュアルを作成し、委員の職員が講師となりシュミレーション研修を行っている。また、年2回のグループ内美観点検もあり、毎回上位に入る程の日々の努力を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のこれまでの生活歴を尊重し、希望があれば畑と一緒に行き作業をしたり、職員同行で買い物に出かけたりと、日々の関わりの中で希望をくみ取り対応できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1人ひとりのペースで生活することができるように利用者様の要望を聞き、希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を本人に選んでもらったり、化粧や髪形、訪問理容の活用など、本人の要望に沿えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理の下準備、片づけの食器洗いなど、利用者様一人ひとりの活動能力を活かしながら職員とともにいき、楽しく食事ができるよう努めている。	献立・食材調達・調理は、職員が利用者の好みを参考に全て行っており、利用者は職員と一緒に配膳や片付けなどを行っている。夏には流しソーメンや屋外での焼肉、5事業所合同でのバーベキュー大会など楽しい食事の支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を1日通して確保できるよう、食事摂取や水分摂取に拒否がある方には本人の嗜好品を勧める工夫をしておき、その方に合わせた支援をし、生活シートに記録し、職員間で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者様に毎食後の口腔ケアの誘導、見守り、介助を行っている。誤嚥の可能性がある方には、口腔ウエットティナーを用い、食後以外にも口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科利用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力おむつの使用は避け、トイレでの排泄が行えるよう、個人の排泄パターンをアセスメントし支援している。排泄困難な方の下剤の服用時間についても、トイレでの排泄ができる時間帯を検討し、医療機関との連携にて対応している。	生活シートを活用して、利用者ひとり一人の排泄パターンを把握し、個別のサイクルを作り、表情や仕草で個々に合わせて誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で毎日一人ひとりの排便状況を確認し、極力自然排便することができるよう水分摂取の促しや乳製品の提供、運動を働きかけている。慢性の便秘は主治医に相談し、内服薬で排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴することができるように環境を整え支援している。	浴室は個別ユニット型で、週2回以上を予定しており、基本的には午後から入浴だが、個別の状況に合わせて希望の時間で入浴できるように個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境を整える事で良眠できるよう支援している。日中でも眠気の強い利用者様には、居室で休息を取ってもらっている。安全に配慮し、リビングソファでの臥床する場所を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを順守し、状態変化があった場合は、生活シートに記載し、必要に応じ医療機関に指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人に合わせて、散歩や買い物、家事の手伝い等を行う事で、喜びのある生活を提供している。また、季節に合わせた行事を開催している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や裏庭等、外出の希望がある時は、できるだけ希望に沿えるよう対応している。また、季節ごとの外出行事も企画し、外気に触れる機会を設けている。	近隣の散歩や隣接した保育園との交流、買い物など希望があれば都度外出支援をしている。外出行事では、動物園や上川神社祭り、せるぶの丘へのドライブ、忠和地区5事業所合同での屋外バーベキュー大会は家族参加で盛大に開催するなど家族や地域の方の協力で外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承の下、希望される利用者様はお金を一部管理している。外出時には、利用者様の状況に合わせて、所持、支払いを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時には、事前にご家族様の了承を得て、電話、手紙を出す事ができるよう支援している。携帯電話を所持し自由に利用される方もいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや、利用者様と共同で作成した貼り絵等の作品、行事等の写真を掲示する事で、季節を感じてもらったり、楽しみを持ってもらえるようにしている。	共用空間は、採光や風通しも良く、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品、行事の写真など掲示し季節を感じる工夫をしている。リビングは広くゆったりしており、利用者が寛いでいる居心地のよい空間である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の心理や身体、人間関係により椅子、テーブルを配置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様と相談しながら、できるだけ使い慣れた物や好みの物を使用してもらうよう考慮し、居心地よく過ごせるように支援している。	居室には、大きな収納とベットが設置されている。入口の表札は職員の手作りで利用者の写真付きで自分部屋を認識できるよう工夫している。利用者が使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレお風呂場には張り紙をして場所が分かるようにしている。また、各居室前には利用者様の名前や写真を飾る事で分かりやすくしている。			